南紀生物，58(2)：215–218，2016

鹿児島県から得られたイトヨリダイ科魚類 シャムイトヨリ *Nemipterus peronii*

畑　晴陵*・山田　守彦**・本村　浩之***

Harutaka HATA, Morihiko YAMADA and Hiroyuki MOTOMURA :
Record of *Nemipterus peronii* (Perciformes: Nemipteridae) from Kagoshima Prefecture, southern Japan

はじめに

イトヨリダイ科イトヨリダイ属（Nemipteridae: *Nemipterus*）は，眼下骨に鱗と棘が無い，両顎の前部にのみ牙状歯を有する，背鰭前方鱗の被鱗域の先端が両眼の中央を結んだ線の付近に達する，側頭部が被鱗する，および頬部鱗列数が3であることによって特徴づけられる（LEE, 1986；RUSSELL, 1990, 2001；SHEN, 1993）。本属は日本からヒライトヨリ *N. aurora* RUSEELL，ソコイトヨリ *N. bathybius* SNYDER，モモイトヨリ *N. furcosus*（VALENCIENNES），シャムイトヨリ *N. peronii*（VALENCIENNES），ジャバイトヨリ *N. tambuloides*（BLEEKER），トンキンイトヨリ *N. thosaporni* RUSSELL，イトヨリダイ *N. virgatus*（HOUTTUYN），およびヒメイトヨリ *N. zysron*（BLEEKER）の8種が知られている（藍澤・土居内，2013）。そのうちシャムイトヨリはこれまで国内において琉球列島からのみ記録されており（藍澤・土居内，2013），薩南諸島を含む鹿児島県内のイトヨリダイ科魚類相を報告した藤原ほか（2014）にも記録されていない。

2015年12月12日に鹿児島県肝付町内之浦湾から1個体のシャムイトヨリが採集された。本標本は鹿児島県本土におけるシャムイトヨリの標本に基づく初めての記録となると同時に本種の分布北限を更新する記録となるため，ここに報告する。

材料と方法

計数・計測方法はHUBBS & LAGLER（1947）に概ねしたがい，体高，眼下骨幅，および頬部鱗列数はRUSSELL（1990）にしたがった。標準体長は体長と表記し，体各部の計測はデジタルノギスを用いて0.1 mmまでおこなった。種の標準和名と学名は藍澤・土居内（2013）にしたがった。シャムイトヨリの生鮮時の体色の記載は，固定前に撮影された鹿児島県産の1標本（KAUM–I. 83711）のカラー写真に基づく。標本の作製，登録，撮影，および固定方法は本村（2009）に準拠した。本報告に用いた標本は，鹿児島大学総合研究博物館に保管されており，上記の生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている。本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り：FAKU－京都大学；KAUM－鹿児島大学総合研究博物館。

Nemipterus peronii（VALENCIENNES, 1830）
シャムイトヨリ（図1）

調査標本：KAUM–I. 83711，体長93.6 mm，鹿児島県肝属郡肝付町内之浦湾（31° 17′ N, 130° 05′ E），2015年12月12日，定置網，山田守彦。

記載：背鰭条数X, 9；臀鰭条数III, 7；胸鰭軟条数17；腹鰭条数I, 5；有孔側線鱗数47；頬部鱗列数3；鰓耙数5 + 6 = 11。体各部測定値の体長に対する割合（%）：体高28.2；頭長31.0；吻長10.0；眼径9.2；眼隔域幅6.3；眼下骨幅4.8；尾柄長17.1；尾柄高10.2；背鰭基底長57.8；上顎長10.7；下顎長12.3；背鰭前長36.0；臀鰭前長68.2；胸鰭長21.7；腹鰭長23.3；腹鰭棘長13.5；臀鰭基底長18.5；眼後長12.1;；背鰭第1棘長7.6；背鰭第2棘長10.5；背鰭第3棘長12.5；背鰭第4棘長14.7；背鰭第5棘長17.6；背鰭第6棘長17.6；背鰭第7棘長17.7；背鰭第8棘長16.2；背鰭第9棘長13.6；背鰭第10棘長

* 〒890–0065 鹿児島市郡元1–21–24　鹿児島大学大学院連合農学研究科
The United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1–21–24 Korimoto, Kagoshima 890–0065, Japan　E-mail: k2795502@kadai.jp
** 〒892–0814 鹿児島市港新町3–1　いおワールドかごしま水族館
Kagoshima City Aquarium, 3–1 Minato-shinmachi, Kagoshima 892–0814, Japan
*** 〒890–0065 鹿児島市郡元1–21–30　鹿児島大学総合研究博物館
The Kagoshima University Museum, 1–21–30 Korimoto, Kagoshima 890–0065, Japan

12.1；臀鰭第1棘長3.3；臀鰭第2棘長7.3。

体は前後方向に長い長楕円形で側扁し，体高は背鰭起部で最大。体背縁は上顎先端から背鰭第5棘起部にかけて緩やかに盛り上がり，そこから尾鰭基底にかけてなだらかに下降する。体腹縁は下顎先端から腹鰭起部にかけてなだらかに下降し，そこから尾鰭基底にかけて緩やかに上昇する。胸鰭基底上端は鰓蓋後端よりも僅かに後方，胸鰭基底下端は背鰭起部よりも僅かに後方にそれぞれ位置する。胸鰭後端は尖り，背鰭第8棘起部直下に達する。背鰭起部は胸鰭基底上端よりも僅かに後方に位置し，背鰭基底後端は臀鰭基底後端よりも後方に位置する。背鰭第1軟条起部は臀鰭第3棘起部直上に位置する。背鰭各棘間の鰭膜は深く切れ込む。背鰭第1棘と第2棘は近接せず，いずれも糸状に伸長しない。腹鰭起部は背鰭第3棘起部直下，腹鰭基底後端は背鰭第4棘起部直下にそれぞれ位置する。たたんだ腹鰭棘の後端は背鰭第7棘起部よりも僅かに後方に達する。腹鰭第1軟条は糸状に伸長し，たたんだ腹鰭の後端は肛門を僅かに越え，背鰭第10棘起部直下に達するが，臀鰭起部には達しない。腹鰭は前後方向に細長い腋鱗をそなえる。臀鰭起部は背鰭第1軟条起部より僅かに後方，臀鰭第1軟条起部は背鰭第3軟条起部直下にそれぞれ位置する。臀鰭基底後端は背鰭第7軟条起部直下に位置する。尾鰭は二叉型で深く湾入し，上葉は下葉よりも僅かに長いが，糸状に伸長しない。肛門は前後方向に長い楕円形。体は櫛鱗に被われるが，吻部，眼の周囲，下顎腹面は無鱗。背鰭前方鱗の被鱗域の先端は楔形をなし，両眼の中央を結んだ線に僅かに達しない。眼と瞳孔はともに前後方向に長い楕円形。鼻孔は2対で前鼻孔と後鼻孔は互いに近接し，眼の前縁前方に位置する。両鼻孔はともに正円形を呈し，前鼻孔後縁に皮弁をそなえる。口は小さく端位で，上顎後端は眼の先端よりも後方に達するが，瞳孔先端には達しない。両顎には小円錐歯が密生し，両顎の前部には牙状歯がそれぞれ4対ある。上顎先端は下顎先端よりも僅かに前方に位置する。前鰓蓋骨後縁は鋸歯状を呈し，眼下骨下縁，前鰓蓋骨と主鰓蓋骨の後縁はいずれも円滑。鰓耙は塊状で短い。鰓弁は細長い糸状。

生鮮時の色彩：体背面の地色は茶色がかった淡い桃色。体側上部から体側中央にかけてと頭部側面の地色は淡い桃色。体側下部から体腹面にかけては一様に銀白色。背鰭起部から尾柄にかけての体側上部に8つの淡褐色の鞍状斑がはいる。体側上部から体側下部にかけて8本の不明瞭な黄色縦帯がはいり，それぞれの幅は瞳孔よりも狭い。上唇は明るい黄色。吻端から眼の前縁にかけて瞳孔よりも細い黄帯がはいる。背鰭各鰭条は白色半透明。背鰭各鰭条間の鰭膜は紫がかった桃色を呈し，縁辺部は鮮黄色。胸鰭各軟条は白色半透明，縁辺部は紫褐色をそれぞれ呈し，基底部付近は黄色。腹鰭各鰭条は白色半透明を呈し，基底部付近は黄色。臀鰭の各鰭条と鰭膜は白色半透明を呈し，臀鰭中央部に1黄色縦帯がはいる。尾鰭は鮮黄色を呈し，下縁と後縁は紫色。虹彩は鮮やかな桃色を呈し，瞳孔は青みがかった黒色。

アルコール保存標本の体色：体背面から体側上部は淡い紫褐色を呈し，体側は一様に帯びた淡い黄褐色となる。

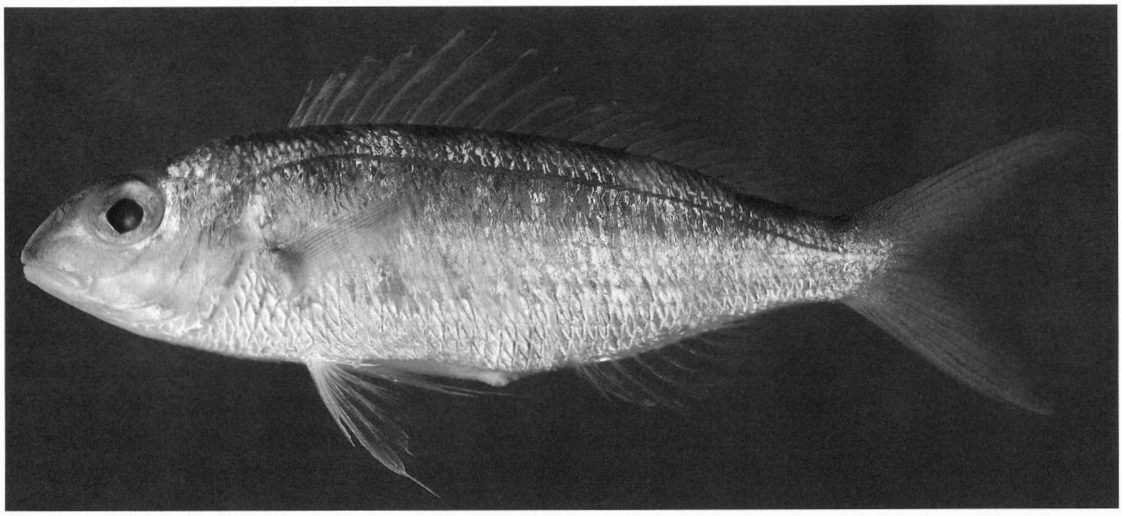

図1　シャムイトヨリ *Nemipterus peronii*。KAUM–I. 83711，体長93.6 mm，2015年12月12日，鹿児島県肝属郡肝付町内之浦湾

Fig. 1. Fresh specimen of *Nemipterus peronii*. KAUM–I. 83711, 93.6 mm standard length, Uchinoura Bay, Kimotsuki, Kagoshima Prefecture, southern Japan

体側上部の鞍状斑は茶褐色となる。

分布：紅海，ペルシア湾，アラビア海，スリランカ，ベンガル湾などのインド洋，アンダマン海，および日本からニューカレドニアにかけての西太平洋から知られている（赤崎，1962；益田ほか，1975；久新ほか，1982；赤崎，1984; Lee, 1986; Russell, 1986, 1990, 1993, 2001; Shen, 1993; Iwatsuki *et al.*, 2000; Motomura, 2009；藍澤・土居内，2013; Iwamoto & McCosker, 2014; Motomura, 2015; Psomadakis *et al.*, 2015; Miesen *et al.*, 2016）。日本国内では琉球列島からのみ記録されていた（益田ほか，1975；赤崎，1984；三浦，2012；藍澤・土居内，2013）が，本研究によって新たに鹿児島県大隅半島東岸の内之浦湾における分布も確認された。

備考：鹿児島県産の標本は，背鰭棘間の鰭膜が深く切れ込むこと，尾鰭上葉が糸状に伸長しないこと，臀鰭が3棘7軟条であること，背鰭第1棘と第2棘が近接せず，糸状に伸長しないことなどが，Russell（1986, 1990, 1993, 2001）や藍澤・土居内（2013）の報告した *N. peronii* の標徴とよく一致したため，本種と同定された。また，記載標本から得られた計数・計測値は Russell（1986, 1990, 1993, 2001）によって示された *N. peronii* のそれらとよく一致した。なお，シャムイトヨリは背鰭各棘間の鰭膜が深く切れ込むという1形質で，同属他種と容易に識別される（Russell, 1986, 1990, 1993, 2001, 2013；藍澤・土居内，2013）。

Nemipterus peronii を日本から初めて報告したのは吉野ほか（1975）である。彼らは本種を *N. tolu* として琉球列島産魚類目録に本種を含めた。また，益田ほか（1975）と赤崎（1984）は本種を *N. tolu* として報告し，日本近海における分布域を琉球列島としたほか，沖縄本島東岸で多数が漁獲されることを報告した。なお，岡田・松原（1938）は *N. tolu* を台湾高雄，中国，フィリピン，および東インド諸島に分布するとし，和名「バラダイ」を提唱した。また，松原（1955）は本種に適用すべき学名を *N. mulloides* とし，その和名を「バラダイ」とした。しかし，赤崎（1962）はタイ湾から得られた3個体（FAKU 27444–27446，体長 14.6–15.7 cm）の *N. tolu* を報告し，同時に和名「シャムイトヨリ」を提唱した。現在，*N. tolu* と *N. mulloides* は *N. peronii* の新参異名とされている（Russell, 1986, 1990, 1993）。

その後，シャムイトヨリはこれまで国内において琉球列島からのみ記録され（三浦，2012；藍澤・土居内，2013），また同地が分布の北限とされており（Russell, 2001；藍澤・土居内，2013），その他の地域からの報告はない。したがって，本研究で調査した内之浦湾産の標本は，鹿児島県本土初記録となると同時に，本種の分布の北限をおよそ 300 km 更新するものである。

謝　　辞

本報告を取りまとめるにあたり，原口百合子氏，立川日奈子氏をはじめとする鹿児島大学総合研究博物館ボランティアと同博物館魚類分類学研究室の皆さまには適切な助言を頂いた。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は笹川科学研究助成金（28-745），JSPS 科研費（19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265），JSPS 研究拠点形成事業－アジア・アフリカ学術基盤形成型－「東南アジア沿岸生態系の研究教育ネットワーク」，総合地球環境学研究所「東南アジア沿岸域におけるエリアケイパビリティーの向上プロジェクト」，国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」，文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性とその保全に関する教育研究拠点整備」，および鹿児島大学重点領域研究環境（生物多様性プロジェクト）学長裁量経費「奄美群島における生態系保全研究の推進」の援助を受けた。

引 用 文 献

藍澤正宏・土居内　龍．2013：イトヨリダイ科．*in* 中坊徹次編．日本産魚類検索　全種の同定，第三版，945–954, 2011–2013．東海大学出版会，神奈川．

赤崎正人．1962：タイ型魚類の研究　形態・系統・分類および生態．京大みさき臨海研究所特別報告，1, 1–368.

————．1984：シャムイトヨリ *Nemipterus tolu*（Valenciennes）．*in* 益田　一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫編．日本産魚類大図鑑，170, pl. 165-A．東海大学出版会，東京．

藤原恭司・畑　晴陵・本村浩之．2014：標本に基づく鹿児島県のイトヨリダイ科魚類相．Nat. Kagoshima, **40**, 59–67.

Hubbs, C. L. & K. F. Lagler. 1947：Fishes of the Great Lakes region. Cranbrook Inst. Sci. Bull., **26**, i–xi + 1–186.

Iwamoto, T. & J. E. McCosker. 2014：Deep-water fishes of the 2011 Hearst Philippine Biodiversity Expedition by the California Academy of Sciences. *in* G. C. Williams & T. M. Gosliner（eds.）The Coral Triangle. The 2011 Hearst Philippine Biodiversity Expedition, 263–332. California Academy of Sciences, San Francisco.

Iwatsuki, Y., M. I. Djawad, A. I. Burhanuddin, H. Motomura & K. Hidaka. 2000：A preliminary list of

the epipelagic and inshore fishes of Makassar (= Ujung Pandang), south Sulawesi, Indonesia, collected mainly from fish markets between 23-27 January 2000, with notes on fishery catch characteristics. Bull. Fac. Agric., Miyazaki Univ., **47**, 95–114.

久新健一郎・尼岡邦夫・仲谷一宏・井田　斉・谷野保夫・千田哲資．1982：南シナ海の魚類．333pp．海洋水産資源開発センター，東京．

LEE, S.-C. 1986：Fishes of the family Nemipteridae (Teleostei: Percoidei) of Taiwan. Bull. Inst. Zool., Acad. Sinica, **25**, 161–175.

益田　一・荒賀忠一・吉野哲夫．1975：魚類図鑑　南日本の沿岸魚．379pp．東海大学出版会，東京．

松原喜代松．1955：魚類の形態と検索　Part I. xi + 789pp．石崎書店，東京．

MIESEN, F. W., F. DROPPELMANN, S. HÜLLEN, R. K. HADIATY & F. HERDER. 2016：An annotated checklist of the inland fishes of Sulawesi. Bonn. Zool. Bull., **64**, 77–106.

三浦信男．2012：美ら海市場図鑑　知念市場の魚たち．140pp．ウェーブ企画，与那原．

本村浩之．2009：魚類標本の作製と管理マニュアル．70pp．鹿児島大学総合研究博物館，鹿児島．

MOTOMURA, H. 2009：*Nemipterus peronii* (VALENCIENNES, 1830). *in* S. KIMURA, U. SATAPOOMIN & K. MATSUURA (eds.) Fishes of Andaman Sea. West coast of southern Thailand. 157. National Museum of Nature and Science, Tokyo.

————. 2015：*Nemipterus peronii* (VALENCIENNES, 1830). *in* S. KIMURA, A. ARSHAD, H. IMAMURA & M. ABD GHAFFAR (eds.) Fishes of the Johor Strait, peninsular Malaysia. 58. Mie University, Tsu, Universiti Putra Malaysia Press, Serdang.

岡田彌一郎・松原喜代松．1938：日本産魚類検索．xi + 584pp．三省堂，東京．

PSOMADAKIS, P. N., H. B. OSMANY & M. MOAZZAM. 2015：Field identification guide to the living marine resources of Pakistan. FAO species identification guide for fishery purposes. x + 386pp. + 42pls. FAO, Rome.

RUSSELL, B. C. 1986：Review of the western Indian Ocean species of *Nemipterus* Swainson 1839, with description of a new species. Senckenbergiana Biol., **67**, 19–35.

————. 1990：FAO species catalogue. Nemipterid fishes of the world (thread fin breams, whiptail breams, monocle breams, dwarf monocle breams and coral breams). Family Nemipteridae. An annotated and illustrated catalogue of the nemipterid species known to date. FAO Fish. Synop., 125: **12**, i–v + 1–149 + pls. 1–8.

————. 1993：A review of the threadfin breams of the genus *Nemipterus* (Nemipteridae) from Japan and Taiwan, with description of a new species. Jpn. J. Ichthyol., **39**, 295–310.

————. 2001：Nemipteridae, threadfin breams (also whiptail breams, monocle breams, dwarf monocle breams, and coral breams). *in* K. E. CARPENTER & V. H. NIEM (eds.) FAO species identification guide for fishery purposes. The living marine resources of the western central Pacific. Vol. 5. Bony fishes part 3 (Menidae to Pomacentridae), 3051–3089. FAO, Rome.

————. 2013：A new species of *Nemipterus* (Pisces: Nemipteridae) from the western Indian Ocean. Zootaxa, **3630**, 191–197.

SHEN, S.-C. 1993：Fishes of Taiwan. 960pp. Department of Zoology, National Taiwan University, Taipei.

吉野哲夫・西島信昇・篠原士郎．1975：琉球列島産魚類目録．琉球大学理工学部紀要，理学編，**20**, 61–118.